

訳語「奇跡」と日中語彙交流

千葉謙悟

提要：本文对 miracle 的译词“奇迹”进行探讨，描述其演变。“奇迹”原是中国古籍里所见的词语，词义为“不平凡”、“罕见”等。17 世纪以后来华的耶稣会士用“圣迹”、“灵迹”等词对译 miracle，但是没采用“奇迹”。19 世纪末日本开始使用“奇迹”并得到普及。到 19 世纪 30 年代中国才接受“奇迹”作为 miracle 的译词。一般说中日两国之间的语言交流的高峰期截止至 20 世纪的头十年左右，“奇迹”可以说是 20 世纪中日词汇交流的另一类型的例子。

キーワード：奇跡、聖蹟、翻訳語、日中語彙交流

0. はじめに

「奇跡」とは¹、大まかに言えば、キリスト教において自然法則に反する出来事の発生をある「しるし」の発現として受け入れることを指す。信仰者について言えば、この出来事を受け入れることで不可能を可能にする神の全能を信じることとなるのである。

16 世紀よりアジアに現れた宣教師たちは、中国や日本において彼らの教義を現地の言語に「翻訳」する作業に従事した。なぜかかる行為が可能であったのかといえ、少なくとも一部の宣教師たちは中国人や日本人のことを翻訳によってキリスト教の教義を理解できる存在と見なし、いたからに他ならない。つまりキリスト教は漢字漢文をもって伝えうると考えられていたのである。

また当時創造された翻訳語がほぼすべて漢字語であったという点は重要であろう。漢字で表

¹ 「奇跡」の異表記には「奇蹟」「奇迹」があるが、本論では「奇跡」ですべてを代表させる。なお、現代中国語では「奇迹」と表記され、「想像不到的不平凡的事情（想像もしない、普通でないことながら）」とある。用例としては「她的病奇迹般地好起来了（彼女の病気は奇蹟のように良くなり出した）」という一文が挙げられる（中国社会科学院语言研究所词典编辑室編 2001:995）。

される翻訳語の創造により、東アジアでは個別の言語圏を超えた翻訳語の交流が行われたからである。本論ではそうした翻訳語の中から「奇跡」をとりあげて若干の考察を試みたい。この語はキリスト教の基本用語の一つでありながら管見の限り語誌が専門的には検討されておらず、また後に見るように日中間の語彙交流のピークが過ぎた1920年代から30年代にかけて交流のあった語と考えられることから、20世紀前半の語彙交流の典型例たり得ると考えられる。本稿では「奇跡」の語誌を検討し、結論として三つの可能性を指摘したい。

- ①日本語で *miracle* に対する訳語として「奇跡」が定着したのは19世紀末である。
- ②中国語では20世紀前半である。
- ③中国語における「奇跡」の導入は日本語の影響による。

1. 前近代中国における「奇跡」

「奇跡」とはもともと中国の古典語彙中に求められる語である。そこにあつては第一に「普通ではないこと、珍しいこと」というほどの意味であった。用例としては以下を挙げることができる。(以下、引用文中の下線および句読はすべて千葉による)

(1) 無知叡敏，獨昭奇跡。

魏無知は聡明で鋭敏、独り尋常ならざる功績を挙げた。

(晋) 陸機「漢高祖功臣頌」『文選』卷四十七

第二には「跡」を筆跡と捉え、「優れた珍しい書」を指す場合がある。

(2) 唯師獨慕陶彭澤 奇蹟仍收王會稽

唯一の師としては陶淵明を慕い、珍奇な書として王羲之のものを収める

(宋) 梅堯臣「答新長老詩篇」²

いずれにせよ、こうした古典的な用法において「奇蹟」は現代におけるように「人知を越えた不思議な現象」という文脈を有していたわけではないことが分かる。

では中国に現れたカトリック宣教師たちの漢文文書において*miracle*³に相当する翻訳語には何があったのであろうか。この問題を解くためには16世紀から布教に従事した来華イエズス会宣教師たちの活動に光を当てる必要がある。

例えば16世紀後半に来華したイタリア人宣教師ルッジェーリ (Ruggeri、中国名羅明堅) はキ

² (1) および (2) の例は『漢語大詞典』縮刷版 (上) :1384 から採った。

³ キリスト教における<奇跡>を表す語として本稿では *miracle* で他の用語を代表させる。英語でいえば、<奇跡>を表す語には他にも *wonder* が挙げられよう。次節に検討する訳語に関しては *wonder*, *mystery* およびその形容詞形 (*extraordinary* を加えて) も本稿を準備する際に調査しているが、調査した限りにおいて「奇跡」は現れなかったもので特には触れない。

リスト教の奇跡物語を漢文で集成して『天主聖教聖蹟略』（1587 頃。パリ国立図書館蔵。稿本）という書を著している。ここでは書名からわかるとおり miracle に対応するのは「聖蹟」である。また、本文中にも「聖蹟」という語をもって miracle に相当する事績を表現している箇所がある。

(3) 昔聖玻納文士辣一日在堂中行默禱之功, 有本會之友領聖體。聖人默讀天主。曰至尊之天主, 吾雖備十年恭敬之心以領聖體, 尚未足以領之。吾主喜聖人大謙細之心。故令一小聖餅飛入聖人之口賜而領之。此聖蹟也。

昔のとある日のこと、聖ベネヴェントゥーラ (Beneventula) は教堂で黙禱をささげていた。修道院の同僚に聖体を拝領する者がいたが、聖人はただ神を念じ「至尊なる神よ、私は 10 年をかけうやうやしい心をもって聖体を拝領しようとしているのですが、まだ拝領するには至りません」と言った。主は聖ベネヴェントゥーラの大いなる謙遜の心を喜び、小さな聖餅を聖ベネヴェントゥーラの口に飛ばして与え、聖体を拝領させた。これは奇蹟である。

羅明堅『天主聖教聖蹟略』（ca. 1587）:1b4-7

なお、ルッジェーリのこの書の名は「聖蹟」を用いるが、本文中では「聖迹」という語形も現れる。特に両者の使い分けはないようだ。以後、カトリックにおいては「聖蹟」は安定した形で用いられる。以下は清代康熙年間の資料である。

(4) 康熙十九年十一月内, 湖廣武昌府天主堂穆神父, 往德安府傳教, 此方教友事主甚虔, 是以天主現多聖蹟於此。…菜基村彗星出現時候, 有一教中人, 聖名多默, 為人也, 生平事主真心忠誠可信。一日將聽夫婦二人倚門而立。忽見天上^マ一十字架, 長約一丈, 闊約六七丈。其色甚紅。週圍綠色鑲邊。自西而起漸落於東。則不見矣。

康熙十九年 (1680) 十一月に湖広武昌府天主堂の穆神父は徳安府へ伝教しに行った。その信者たちは非常に敬虔だったので神は多くの奇跡をここに顕された…菜基村に彗星が現れたとき、洗礼名をトマスという信者がいたが、日頃から神に心から仕えその忠誠は信用のおけるものであった。ある日、夫婦が門口に立っていると突然天に十字架が見えた。長さは約一丈、幅は約六七丈あった。色は真っ赤で周囲は緑色で縁取られていた。西から現れだんだん東へ沈んでいって見えなくなった。

無名氏「湖廣聖蹟」鍾鳴旦・杜鼎克編 2002:425-428

次いで「奇」字を用いる語形がキリスト教の文脈に現れる初出を求めると、管見の限りながら著名なイタリア人宣教師リッチ (利瑪竇) の『西字奇蹟』（1606）という書が見いだされる。これは聖書から 3 つの有名な場面を選び絵と漢文による解説を付したものであるが、中国語学および東西交流史的には、文中の漢字にリッチたちが考案したローマ字標音を与えている点が重要である。

しかしながら『西字奇蹟』に収められているエピソードは<奇跡>と直接関係があるとは言い難いものもあるから⁴、ここでの「奇蹟」とは伝統的な、古典的な意味での使用と考えた方が良さそうである。すなわち、『西字奇蹟』とは「西洋の珍しい文字」というほどの意味をこめて付けられた名にすぎず、書名中の「奇蹟」とmiracleとの関わりは必ずしも深くないといえよう。このことはリッチがこの本を刊刻した程大約に贈った「述文贈幼博程子」が傍証たり得よう。

(5) 程子聞弊邦素習文, 而異庠之士且文者殊狀, 欲得而諦觀之。予曰子得中國一世之名文, 何以荒外文為耶。

程大約は我が国がもとより文学を攻究し学問のある人間が非常に多いと聞き、手に入れて鑑賞したいと望んだ。あなたは中国のすばらしい書を有しているというのになぜ外国の文字で書き表そうとするのですか、と私は言った。

利瑪竇「述文贈幼博程子」『西字奇蹟』。朱維錚主編 2001:269
事実、『西字奇蹟』においてリッチは宗教的な奇蹟に対し特定の用語を使っていない。

2. 19世紀中国の「奇蹟」

18世紀以後の禁教の時代を経て、19世紀に入るとカトリックに代わり英米系のプロテスタント宣教師が中国で活躍するようになる。彼らもまた布教のため中国語を研究し、その成果の一部を辞書の形で著した。いまそれらのうちから代表的なものを選びmiracleに対応する語釈を調べると以下のようなになる⁵。(以下、英華字典類の語釈に付されたローマ字標音は省略)

(6) MIRACLE, … 奇表; 異跡; 神跡; 靈跡

MIRACULOUS nature, this manifests, 是顯其靈異也

Morrison *A Dictionary of the Chinese Language Part III* (1828) :279

(7) MIRACLE 神跡; 靈跡

Williams 『英華韻府歷階』(1844) :180

(8) Miracle, n. 神跡、神蹟、異跡、靈跡、奇表、聖跡

Miraculous, a. 奇異、出奇的、離奇的; performed supernaturally, 神跡的、異跡的、出人意概、超人意的、越人意的、超凡的; miraculous power, 異跡之權

Lobscheid 『英華字典』1866-69:1181

⁴ 内容はそれぞれペテロが海を渡る話(マタイ伝14章30節)、二人の弟子が復活したイエスに逢う話(ルカ伝24章13-53節)、ソドムが滅ぼされる話(創世記19章)である。

⁵ キリスト教語彙の訳語に関し漢訳聖書は必須の参照文献であるが、聖書は旧約新約を問わず<奇蹟>に相当する語を載せない。聖書には奇蹟物語こそ豊富にあるものの、それを総称する語は現れないのである。したがって漢訳聖書は調査の対象から省いた。

- (9) Miracle or supernatural act, 神跡、聖跡、靈跡、奇表、異跡、超性之事 (Part I)

Miracle, 神跡 (Part III)

Doolittle 『英華萃林韻府』(1874) : Part I:310, Part III:386

- (10) MIRACLE 聖跡 Faire une 一, 顯聖跡⁶

Couvreur 『法漢常談』(1884) : 609

- (11) Miracle, sm. (C) 聖跡

Miraculeux, adj. 顯聖、靈驗

Pétilion *Petit Dictionnaire Français-chinois* (1905) : 370

- (12) Miracle, n. 神奇之跡、異跡

Miraculous, a. 超凡、奇異、神異

王佐廷・顔惠慶 『商務書館華英字典』(1906) : 171

- (13) 怪劇 Miraculous, N. strange.

Morgan *New Terms and Expressions* (1913) : 84

興味深いことに近代語彙が整備される 19 世紀から 20 世紀初頭にかけて、miracle に対応する「奇跡」という語形は調査範囲内の英華字典類には一切現れない。

逆に、この時期の中国において miracle に対応するのはどちらかといえば「神迹」「聖迹」「靈迹」であることがわかる。特に「聖蹟」はルッジェーリ以来のカトリックの訳語の伝統を引き継いだものといえよう。

ところで、これらの語の構成を考えるに、<しるし>という意で「迹（蹟）」が用いられ、<神の>を表す「神」「聖」「靈」などがそれを修飾する構造であると解釈できる。英語 God の訳語として中国語では何が最も適するかどうかという問題は 1830~40 年代の中国学者や宣教師にとって激烈な論争のテーマであったが、神またはイエスの御業としての miracle の訳語もまたこの論争から無関係ではいられなかったように見える。即ち「奇跡」が定着する前段階における miracle の訳語はこの論争を一定程度反映していると思われるのである。

具体的には、God の訳語として「神」を主張していたアメリカ系の宣教師たちが主導した辞書 (7) (9) では「神迹」が第一の訳語として用いられている。一方で「神」ではなく「上帝」を主張するイギリス系宣教師の辞書 (6) において「神迹」は順位を下げているということが指摘できよう。さらに言えば、「天主」を訳語と定めたカトリックの宣教師による辞書 (10) (11) ではルッジェーリ以来の訳語「聖迹」が迷うことなく用いられている。

これら要するに、来華宣教師たちはおそらく miracle の訳を考える際に<神の痕跡>という語構

⁶ この例文の意味は「奇跡を行う」。現代中国語では「创造奇迹」と表現することが一般的である。

成を志向したと考えられよう⁷。この<神の>に当たる適切な形態素が主な問題となり、その候補として19世紀後半の中国にあつては「神」「靈」「聖」などが考えられていたということである。

では miracle の訳語として「奇」を用いた「奇跡」はいつ頃中国に現れるかといえ、かなり時代は下って1910年代となる。

(14) Miracle, n. 神跡、靈驗、奇異、奇事、奇蹟

Hemeling *English-Chinese Dictionary* (1916) : 879

(14) から分かるとおおり、Hemeling の辞書にあつても「奇蹟」は複数の訳語候補のうち最後に挙げられており、当時必ずしも一般に認められたものではなかった可能性が高い。その傍証として、miracle の形容詞である miraculous の訳語にあつては「奇蹟」は現れていない。

(15) Miraculous, a. 神跡的 (wonderful)、怪劇^新、奇異的、出奇的⁸

Hemeling *English-Chinese Dictionary* (1916) : 879

1910年代に至ってようやく対訳辞書に現れた「奇跡」が文学作品などに現れて定着するのはさらに後の時代のことである。

3. 日本語における「奇跡」

本節では目を転じて近代日本における状況を見たい。<奇蹟>が現代的な意味すなわち miracle の訳語として用いられるのは、当然ながらキリスト教が入ってきて以後のことである⁹。1880年代までの対訳辞書の記述を見ると中国の影響を受け「神蹟」「靈蹟」の類が訳語の主流であることが分かる。

(16) Miracle, s. ^{キョウフ} 驚怖、^{イグワイ} 意外ノ^ㄱ
 Miraculous, adj. ^{ヲドロ} 驚クヘキ、意外ナル、大變ナル
 Miraculously, adv. ^{ヲドロ} 驚クヘク、意外ニ
 Miraculousness, s. ^{イグワイ} 意外ナル^ㄱ、^{ヲドロ} 驚クヘキ^ㄱ

薩摩学生『薩摩辞書』(1869) : 357

(17) Miracle, s. 驚怖、意外の^ㄱ 堀達之助

『英和对訳袖珍辞書』(1873) : 502

(18) miracle (名) 異事、奇事、奇蹟、神怪、不可思議

Miraculous (形) 奇異ナル、神怪ナル

⁷ 「奇表」もこの系統に属する。「表」が<しるし>を意味しているのであろう。「靈異」は仏教色の強い語といえるが、キリスト教関連の翻訳語でも例えば「地獄」は仏教用語からの転用語である。

⁸ 語釈右上に付された「新」の字は当該語がこの辞書にあつては新語と認定されていることを示す。

⁹ それまでの日本側文献に「奇跡」という語の使用例は調査範囲では確認できなかった。

Miraculously (副) 奇異ニ、不思議ニ、神力ニテ

尺振八訳『明治英和字典』（1884）:591

(19) Miracle, s. something above human power フシギ オドロキ レイクワイ シンセキ イクワイ 奇異、驚愕、靈怪、神跡、意外ノ事

Miraculous, a. done by miracle フシギ 奇異ノ、驚クヘキ、非常ナル、神妙ナル、靈恠ナル

棚橋一郎訳『英和双解字典』（1885）:461

(20) Miracle Fushigi, kiseki, kotonaru waza.

ヘボン『和英語林集成』初版（1886）:233

(21) Miracle, n. To perform — 神跡ヲ行フ、異跡ヲ行フ

Miraculous, a. — power 異跡ノ權

齋藤恒太郎『蘇譯英文熟語叢』（1886）:394

(22) Miracle, n. 怪事、奇事、意外ノ事、靈怪、不可思議

Miraculous, a. 神妙ナル、靈恠ナル；奇異ノ、驚クベキ、異常ノ

島田豊纂訳『附音挿図和訳英字彙』（1887）:504

(23) Miracle, n. 驚愕、意外ノ事、奇異、靈怪、神跡

イーストレーキ、棚橋一郎共訳『和訳字彙』（1888）:622

(24) Kiseki (奇蹟) A miracle.¹⁰ 井上十吉編『新訳和英辞典』（1909）:845

これらの中で1884年に(18)が「奇蹟」を訳語として掲出しているのは注目に値しよう。現段階での調査ではこれが最も早い例の一つである。ただし、まだ「奇跡的な」「奇跡的に」といった形容詞・副詞を生成する段階には至らず、そういった品詞に対しては「奇異ナル」「奇異ニ」が用いられていることが確認できる。

またほぼ同時期に(20)も訳語kisekiを載せる。ただし初版(1867)および二版(1872)にはkisekiは見えず、代わりにFushigi(=不思議。形容詞形はFushigi-na)が与えられている¹¹。

するとこうした「奇跡」の来源はどこかという問題が生じるが、日本におけるキリスト教信者の文書からであろうことは簡単に予想される。そこで1880年代の文章を探すと、最も早い例を(18)と同じ1884年に得ることができる。

(25) コルリツヂ氏曰ク基督教ノ證憑ニ四種アリトス第一、基督教ノ説ク所世ノ道理ト符合ス是レ以テ福音ノ確實ナルヲ證スルノ根據ト做スニ足レリ之ヲ耶路撒拉城中ノ聖殿ニ喩フレハ此ノ證據ハ其ノ外院ニ比スヘキナリ第二、基督教ノ奇蹟ハ信スベキノ明證ナリ之ヲ聖殿ニ昇ルノ段階ニ擬スヘシ

¹⁰ 他の部分では、例えば Fushigi (不思議) の項目に「A wonder; a mystery (怪訝、又は畏怖の念を起す不可解事) ; a miracle (奇蹟の如き怪事) ; a wonder」(p.301) とある。

¹¹ 和英の部を見ると、初版(1867)では見出し語 Fu-shi-gi (=不思議。千葉注) に対して strange, wonderful, surprising, marvelous, miraculous, supernatural を挙げる (p.191。下線は千葉注)。二版、三版でも同様。

植村正久『真理一斑』(1884)、鈴木範久監修 2002:55

- (26) 若シ物質カ獨リ物理的ノ法則ニ遵ツテ思想ノ機關ヲ造成シタランニハ人生ノ常套ハ瘋癲ニシテ理性ノ完全ナルモノハ甚ダ稀ナリシナラン如何トナレハ許多ノ細胞カ互ヒニ應和シ且能ク外界ト契合シテ正當ノ思想ヲ生スルニ至ル是レ最モ信シ難キ奇跡ニ非スヤ

植村正久『真理一斑』(1884)、鈴木範久監修 2002:128

- (18) (20) および (25) (26) から、おそらくは 1880 年代初頭には「奇跡」が miracle の意味で使用されていたと推測することができる。翻訳語の辞書への登録は一般に実際の用例よりも遅れるものだからである。

1880 年代以降の日本で「奇跡」の用例を見いだすのに困難はない。

- (27) 先ツ多クノ信者ガ基督ヲ信スルノ據證ハ、彼ノ四福音書ニ記載セル基督ノ奇蹟ナリ、彼ハ人間ノカニ於テ能ハサル事ヲ爲セリ、是レ其神ナル確證ニアラスヤト

金森通倫『日本現今ノ基督教並ニ將來ノ基督教』(1891)、鈴木範久監修 2002:87

- (28) 急劇的奇跡的變化の希望全く絶へて余は普通理達の法に依て罪の苦痛より免かれんとせり、而して余の以て頼むべき途と信ぜしものは専心以て學術研究に従事し罪てう念より脱せんとするにありき

内村鑑三『求安録』(1893)、鈴木範久監修 2002:33

- (29) 要するに舊神學の根據は右の如くにして定められしものなるが、さて之に基きて建設せられたる思想の系統を考察するに、先つ上帝の性質を論じ、三位一躰の奥義を極め、…さては基督の奇跡的誕生、奇跡的行爲、其一點の罪なかりしと、其神と同一性にして神と同一位なると…を論定するものなり。

横井時雄『我邦の基督教問題』(1894)、鈴木範久監修 2002:136-137

- (30) 耶蘇基督は昨日も今日も、永遠^{いつまで}も變らざる也と、昔し人間の姿をとつて、此世にお出なされた時、病人を癒し、死人を蘇^{いきかへ}らせ、様々の人間業ならぬ奇蹟^{ふしぎ}を、行ひ給ひたる基督は、今日も其に劣らぬ、色々の奇蹟^{ふしぎ}を私共の間に現はし…¹²

山室軍平『平民の福音』(1899)、鈴木範久監修 2002:90

先に見た辞書では miraculous のような形容詞において「奇跡」は現れなかったが、(28) (29) から知られるとおり、「奇跡」は「～的」という形で連体修飾能力を獲得している。

(30) にあつては平易な文体による伝道文書という性格から、「奇蹟」には「ふしぎ」というルビが与えられている。キリスト教信者を除いて当時おそらくはそれほどなじみのなかった漢

¹² 原文は総ルビであるが引用では必要と思われる部分を除きルビを省略した。

語であろう「奇蹟」は、このような通俗的な文書を通して非信者の間にも広められ理解されていった可能性がある。新語はルビや割り注に付された語釈を通して理解され浸透していくものだからである。

同時期にキリスト教とは直接関係のない文脈、特に文学作品においても「奇跡」の使用例を見いだすことができる。

- (31) 恋愛は各人の胸裡に一墨痕を印して、外には見ゆ可からざるも、終生抹する事能はざる者となすの奇跡なり。

北村透谷「厭世詩家と女性」（1892）、『女學雑誌』303 號

- (32) ちょうどこの上口の辺に美濃の蓮大寺の本堂の床下まで吹抜けの風穴があるということを経つてから聞きましたが、なかなかそこどころの沙汰ではない、一生懸命、景色も奇跡もあるものかい、お天気さえ晴れたか曇ったか譯が解らず、目じろぎもしないですすたと捏ねて上る。

泉鏡花「高野聖」（1900）『新小説』2 月

- (33) 材料の真実な事、部分部分の詳密な事、それから豊富で神経質な言語、これ等は寫實主義の保存せられなくてはならない側である。しかしその上に靈的價值を汲むものとならなくてはならない。奇蹟を官能の病で説明しようとしてはならない。人生に靈と體との二つの部分があつて、それが鎔合せられている。寧ろ混淆せられている。小説も出來る事なら、そんな風に二つの部分があらせたい。そしてその二つの部分の反應、葛藤、調和を書くことにしたい。

森鷗外『青年』（1910）『昂』

これらの例から 1890 年代までには「奇跡」が定着を見ていると判断して差し支えないだろう。

4. 20 世紀中国の「奇跡」

先に見たとおり、中国語で「奇跡」が対訳辞書に登録されるのは清朝も倒れた 1910 年代である。今回の調査範囲内では (14) に現れる例が最も早い、それでも「奇蹟」は複数挙げられている訳語の内の一つに過ぎない。

第 2 節では対訳辞書を検討の対象としてきたが、中国で「奇跡」が自国の、すなわち中国語辞書に登録されるのはさらに遅れる。管見の限りながらそれは『辭海』1936 年版である。

- (34) 【奇蹟】(Miracle) 超出常情以外之事績也。宗教家謂此種事績為神所示、不可由已知理法解説。常識を越えた事績。この種の事績は神に示されたものであつて、既知の理法では解説できないものであると宗教家はいう。

舒新城等主編『辭海』上冊丑集（1936）:288

他の『辞海』の諸版を見ても、1936年以前に「奇跡」は登録されていないようである。

ここで興味深いのは積文中において、おそらく英語を用いればGodにあたるであろう部分（下線部分）に「神」を用いている点である。というのは、この時代の中国語であれば普通Godに対しては「上帝」を用いるはずだからである（現代中国語でも同じ）¹³。従ってこの「奇蹟」という訳語は、Godを一般に「神」と訳す日本語からの影響の下に使用されることになった可能性が推測されよう。

さらにいえば、早い段階で「奇蹟」を載せる（14）も著者 Hemeling がそれまでの宣教師系訳語と日本語訳語とを折衷した辞書である。従って中国語における miracle の訳語「奇蹟」は日本語からの影響による可能性が高いと推測できよう。

辞書への登録が確認されれば、一般にはそれより前の年代に当該語の使用例が発見できることが多い。「奇跡」も例外ではなく、1930年代を中心にいくつかの用例を探し出すことができる。

(35) 我乡的天气是温和的，严冬中，水面也只结一层薄冰，即使孩子的重量怎样小，躺上去，也一定哗喇一声，冰破落水，鲤鱼还不及游过来。自然，必须不顾性命，这才孝感神明，会有出乎意料之外的奇迹，但那时我还小，实在不明白这些。

我が故郷の天気は温暖で、真冬であっても水面には薄い氷が張るだけだから、子供がどんなに軽くても寝そべったら必ずやドボンと水に落ちてしまい、コイが泳いできても間に合わないだろう。もちろん生命を顧みずしてこそ神明を感動させるのであり、思いもよらぬ奇跡が起きようというものだが、当時私はまだ幼く、そうしたことは全く分からなかった。

魯迅「二十四孝圖」『朝花夕拾』1928

(36) 假如‘硬译’而还能保存‘原来的精悍的语气’，那真是一件奇迹，还能说中国文是有‘缺点’吗？”我倒不见得如此之愚，要寻求和中国文相同的外国文，或者希望“两种文中的文法句法词法完全一样”。

もし「硬訳」してなお「もとの精悍なる語気」を保つことができるのであればそれはまことに奇跡であって、中国語には「欠点」があるなどと言えるだろうか？私は中国語と完全に同じい外国語を探し求めたり、「二つの言語の文法やフレーズが全く同じ」であることを望んだりするほど愚かではない。

魯迅「“硬译”与“文学的阶级性”」『二心集』1930

文学作品を対象とした調査では、中国において「奇跡」の用例が現れるのは1930年代が多い。これらを要するに、中国における「奇跡」の定着は日本よりもほぼ30～40年遅くなっているよ

¹³ 日中における God の翻訳語をめぐる問題については柳父 1986 を参照。

うである。

5. 「奇跡」をめぐる日中語彙交流

ここまでの議論を整理すれば、「奇跡」の語誌上の類型は典型的ないわゆる「回帰語」であることになろう。回帰語とは、中国で生まれたものの先に日本で使用が一般化し、主として日清戦争後に中国に逆輸入されて中国語に定着したという歴史を持つ語を指す¹⁴。

「奇跡」の場合、はじめ中国語の古典語彙であったものが、日本において1880年代にmiracleの訳語として転用され¹⁵、日本では訳語としての意味が1890年代に定着した。中国ではその間「聖蹟」「靈蹟」「神蹟」などを用い続けていたことが英華字典類から読みとれる。1930年代に至ってmiracleの日本製訳語「奇跡」は中国の辞書『辭海』に登録されて定着を見たといえよう。

ただし、回帰語であれ純粹に日本で創造された訳語であれ、中国語が日本製訳語を借用するというパターンの語彙交流はその大半が日清戦争後から1910年代に集中している。それ以後は中国の翻訳語整備が一段落したことと中国自身の翻訳語創造の努力が本格化することにより、日本語からの訳語の流入は一段落する¹⁶。そのような中であって「奇跡」をめぐる訳語交流はその時代よりもほぼ一世代遅い。すなわちおおまかに言って日本での定着が1890年代、中国に定着するのが1930年代という語誌を描くことが出来るのである。とはいえ、導入のより詳細な経緯を解明することが待たれる。本稿はそのために予備的な考察を行ったということができよう。

また「奇跡」について今後検討すべきは、日本においてなぜそれまで中国で優勢であった「聖蹟」「靈蹟」を沿用せず新たに「奇跡」が用いられたのかという問題である。「聖蹟」「靈蹟」を載せる英華字典—例えばウィリアムズやロブシャトの辞書—は1870年代までに日本に入ってきていたにもかかわらず、日本のキリスト教界はそこに与えられていた訳語には従わずに「奇跡」を採用したのである。そこには何らかの理由があったと考えるのが自然であろう。この問題については別稿を用意したい。

いずれにせよ、20世紀前半の日中語彙交流の様相についてはまだ研究の蓄積が十分にはなされていない。本稿は近代漢字文化圏にあつて西洋文明全体の翻訳を試みた「奇跡的な」訳業を

¹⁴ 「回帰語 (return loan)」は馬西尼1997の用語であるが、この語は黄興涛2002が指摘するとおりさらに厳密な定義付けが必要であろう。本論では暫時「奇跡」は回帰語としておく。

¹⁵ ただし古典日本語には古典中国語と同様な「奇跡」の使用例は管見の限りとはいえ見つかっておらず、このような語を転用語と称してよいかという点には疑義が残る。ここでは本文前段落の定義に従い回帰語とみなしておく。

¹⁶ 荒川1997参照。

跡づけるための一つの試みのはじまりでもある。

【付記：本論は2009年度文部科学省科学研究費補助金（若手B）「19世紀中国における翻訳語の研究」（課題番号20720113）における研究成果の一部である】

参考文献

荒川清秀 1997『近代日中学術用語の形成と伝播——地理学用語を中心に』、東京：白帝社。

———2002「日中漢語語基の比較」、『国語学』53-1、pp.84-96。

千葉謙悟 2008「神は漢字を嘉したもう——<奇蹟>の訳語をめぐって」、『アジア遊学』115、東京：勉誠出版、pp.154-157。

飛田良文・李漢燮編 2001『ヘボン著和英語林集成 初版・二版・三版対照総索引』、鎌倉：港の人。

堀達之助 1862『英和對譯袖珍辭書』、江戸：洋書調所。東京：秀山社複製 1973。

イーストレーキ、棚橋一郎譯 1888『ウエブスター氏新刊大辭書和譯字彙』、東京：三省堂蔵版。（近代日本英学資料4）、東京：ゆまに書房 1995。

井上十吉編 1909『新譯和英辭典』。東京：三省堂。

齋藤恒太郎纂述 1886『蘇譯英文熟語叢』、東京：攻玉社蔵版（近代日本英学資料13）。東京：ゆまに書房 1995。

薩摩学生 1869『和訳英辭書』、Shanghai: American Presbyterian Mission Press。（薩摩辭書。明治二年改正増補和訳英辭書初版本）、高城書房出版 1997。

島田豊纂譯、曲直瀬愛校訂 1887『附音挿図和譯英字彙』、東京：大蔵書店蔵版。（近代日本英学資料9）、東京：ゆまに書房 1995。

尺振八譯 1884『明治英和字典』、東京：六合館蔵版（近代日本英学資料5）。東京：ゆまに書房 1995。

鈴木範久監修 2002『近代日本キリスト教名著選集』第I期、東京：日本図書センター。

棚橋一郎譯 1895『英和雙解字典』、東京：丸善商社蔵版（近代日本英学資料2）、東京：ゆまに書房 1995。

柳父章 1986『ゴッドと上帝——歴史の中の翻訳者』、東京：筑摩書房。

黄兴涛 2002《近代中国新名词的研究与词汇传统的变革问题——以输入日本新名词为中心的讨

- 论》、《日本学研究》12、pp11-17、北京：世界知识出版社。
- 羅明堅 ac.1587『天主聖教聖蹟略』、巴黎国立图书馆藏。
- （意）馬西尼，黃河清譯 1997《現代漢語詞彙的形成——十九世紀漢語外來詞研究》、上海：漢語大詞典出版社。
- 舒新城等主編 1936『辭海』、上海：中華書局。
- 王佐廷・顏惠慶重訂『商務書館華英字典 第六版』、上海：商務印書館。
- 中国社会科学院语言研究所辞典编辑室編 2001『现代汉语词典』、北京：商务印书馆。
- 鍾鳴旦・杜鼎克編 2002『耶穌會羅馬檔案館 明清天主教文獻』第十二冊、台北：台北利氏學社。
- 朱維錚主編 2001.『利瑪竇中文著譯集』、上海：復旦大學出版社。
- Couvreur, Séraphin 1884 *Dictionnaire Français-Chinois contenant les expressions les plus usitées de la langue Mandarine* 法漢常談 Ho Kien Fou: Imprimerie de la Mission Catholique.
- Doolittle, J. 1872. *英華萃林韻府 A Vocabulary and Hand-Book of the Chinese Language, Romanized in the Mandarin Dialect. in Two Volumes Comprised in Three Parts.* Foochow: Rozario Marcal & Co.,
- Hemeling, K. 1916 *English-Chinese Dictionary of the Standard Chinese Spoken Language (官話) and Handbook for Translators.* Shanghai: Statistical Department of the Inspectorate general of customs.
- Hepburn, J. C. 1886.『和英語林集成』三版。東京：講談社，1980
- Lobscheid, Wilhelm 1866-69. *英華字典 English and Chinese Dictionary with the Punti and Mandarin Pronunciation.* Hongkong, Daily Press Office
- Morgan, E. 1913 *Chinese New Terms and Expressions with English translations.* Shanghai: Published at C. L. S. Book Depot., Kelley and Walsh, Ltd.
- Morrison, R. 1822 *A Dictionary of the Chinese Language.* Macao: Printed at the honorable East India Company's Press, Published and Sold by Black, Parbury, and Allen, London. 東京：ゆまに書房影印 1996。
- Pétilion, C. 1905 *Petit Dictionnaire Français-Chinois 法華字匯 dialecte de Chang-hai* 上海土話 Chang-hai: Imprimerie de la Mission Catholique à l'orphelinat de T'ou-Sè-Wè.
- Wells Williams, S. 1844 *An English and Chinese Vocabulary, in the court dialect* 英華韻府歷階. Macao: Printed at the Office of the Chinese Repository. 香山書院梓行

近代東西言語文化接触研究会

本会は、16世紀以降の西洋文明の東漸とそれに伴う文化・言語の接触に関する研究を趣旨とし、具体的には次のような課題が含まれる。

- I. 西洋文明の伝来とそれに伴う言語接触の諸問題に関する研究
- II. 西洋の概念の東洋化と漢字文化圏における新語彙の交流と普及に関する研究
- III. 近代学術用語の成立・普及、およびその過程に関する研究
- IV. 欧米人の中国語学研究（語法、語彙、音韻、文体、官話、方言研究等々）に関する考察
- V. 宣教師による文化教育事業の諸問題（例えば教育事業、出版事業、医療事業など）に関する研究
- VI. 漢訳聖書等の翻訳に関する研究
- VII. その他の文化交流の諸問題（例えば、布教と近代文明の啓蒙、近代印刷術の導入とその影響など）に関する研究

本会は、当面以下のような活動を行う。

1. 年3回程度の研究会
2. 年2回の会誌『或問』の発行
3. 語彙索引や影印等の資料集（『或問叢書』）の発行
4. インターネットを通じての各種コーパス（資料庫）及び語彙検索サービスの提供
5. (4)のための各種資料のデータベースの制作
6. 内外研究者との積極的な学術交流

会員

本会の研究会に出席し、会誌『或問』を購読する人を会員と認める。

本会は、言語学、歴史学、科学史等諸分野の研究者の力を結集させ、学際的なアプローチを目指している。また研究会、会誌の発行によって若手の研究者に活躍の場を提供する。学問分野の垣根を越えての多くの参集を期待している。

本会は当面、事務局を下記に置き、諸事項に関する問い合わせも下記にて行う。

〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35 関西大学文学部中国語中国文学科
内田慶市研究室 (Tel.ダイヤルイン 06-6368-0431)

E-mail: keiuchid@pp.iij4u.or.jp

URL: <http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shkky/>

UPL: <http://we.fl.kansai-u.ac.jp/>

代表世話人：内田慶市